

# 企業探訪

企業と  
母親をつなぎ  
共に輝ける  
社会を創りたい

株式会社 Cocoro Ribbon  
代表取締役 大川 真美



通りからも目を引く外観は、  
かわいらしいエメラルドグリーン



スタッフは全員「らしさ見つけ塾」の1期生。  
もちろん仕事も家庭も無理なく両立させています



若いうちから「働く」ことについて考えてもらうため、  
講師として学校に赴くことも



「らしさ見つけ塾」は子連れで参加のママさんも多い

## 経営理念

子どもたちの未来のために、  
地元企業の発展を全力で応援します。

## 課題解決型の経営方針は あきらめの経験から生まれた

業務改善やビジネスの効率化について様々なソリューションの提案があるなか、女性のパワー、しかも子育て中の女性を中心に、中小企業向けアウトソーシング事業を展開する「株式会社ココロリボン」。社員6名全員が子育て中で、代表を務める大川真美さん自身も3児の母親である。依頼を受けた会社の業務を「見える化」し、苦手な部分やコスト・時間がかかる部分を外部（ココロリボン）に代行させ、本来のメイン業務の質を向上させるというビジネスモデルで、平成27年10月の設立以来、注目を集める会社である。

キャリアコンサルタントとしての実力をフルに活かす代表の大川さんは、企業と女性をつなぐ、いわばハブ的な存在だ。短大を出て保育士として働き、その後は損保会社の法人担当営業として働いた大川さん。仕事はどちらも大好きだった。しかし自分が母親になって働き続けるというイメージがどうしても描けなかったという。

「本来の仕事以外の業務や雑事が多過ぎたんです。書きもの、洗濯、営業活動後の事務処理の多さ、本末転倒だと思いました。仕事自体は好きなのに、労働環境によって疲れ、あきらめてしまうことを私は二度も経験した」という。そして「実務以外のあれこれ

向けの商品を扱う企業がイベントを開催する際、男性社員らはその集客に大苦戦。チラシ代、営業に費やす時間が負担になっていった。大川さんは、その集客を一手に引き受け、ママモニター会を開催し、効果的な営業策を実施。集客が増えたというケースもあった。男性社員らはイベントの企画や実施に注力できたという。

「コスト、時間をいかに使うか。無駄だと思うこと、苦手だなど思うことは、すっきりアウトソーシングした方がメリットは大きい」と自信を持つ。

## 働きやすく仕事をデザイン

大川さんがもうひとつ大切にしている仕事がある。それがココロリボン主催のママサポート事業「らしさ見つけ塾」だ。出産や子育てなどで、いったん社会から離れた女性たちの「働きたい」という気持ちや「最初の一步」を応援することを目的としたセミナーで、これまで6期開催し、のべ50人が参加した。自分のキャリアをふりかえり、自分を見つめ直すことで、これからの自分らしい生き方を描くというロールモデルで、参加者同士が語り合う中で次の一步を自信に満ちた確かなものにしてあげたいとの願いがある。ここから就職活動に向かう人もいれば、新しい資格取得に向けて勉強を始める人もいる。ココロリボンの社員も全員この塾のOGだ。

誰かにやってもらえれば、私は続けられたかもしれない」という思いが残った。また企業から誰か働ける人がいないかと頼まれることも多かったが、主婦を紹介してもすぐに辞めてしまうケースが相次いだ。企業側が主婦がどんな働き方を希望しているか、知らないことでおこるミスマッチが問題だと気付いた。無駄なことに忙殺される時間、主婦の働き方ニーズへの無理解。「なんとかしたい」と考え、主婦の事情に寄り添う主婦目線の事務代行業という仕事を創り出すことになった。

## 「見える化」で実態を分析 アウトソーシングで効率アップ

アウトソーシングを受ける際に行われる「業務の見える化」とはどんなものか。大川さんの手法は、まず社員からヒヤリングし業務や作業にかかる時間を円グラフにする。そして重要度や担当者のメイン業務を勘案し、作業分担当を見直す。例えば総務職なら、入力作業やファイリング、スキャン、集計作業などは他に回してもいい作業とみなしアウトソーシングする。すると本来の総務としての業務に専念でき、結果として効率上がり、残業時間が減ったり、業務の質が向上するという。またヒヤリングの際に出てくる様々な課題についても、IT活用、業務提携への適切なアドバイスを行う。

「女性の力を活かすにはコンシェルジュみたいな役割が必要です。育児、家事、介護など様々な事情を抱えるお母さんたちの仕事を、働きやすいようにデザインすることが大切です。パート職のように時間で割り充てるのではなく、作業として任せること。各自の得意な分野を活かせば、仕事も楽しくなってくるはず」と大川さんはいう。

子どもは親の姿をよく見ている。親がいつも疲れているのは仕事のせい。だから仕事は嫌なもの子どもは思う。「しかしそれは違います。仕事以外の時間に忙殺されるせいです。本来の業務以外の手間をアウトソーシングすることで仕事が快適になり、楽しんで働く大人が増えてほしい。楽しい企業がある地域はいい地域です。私たちは地元企業をサポートすることで、子どもたちの、母親の生きる力を育み、仕事って楽しいものなんだと感じられる社会を、本気でつくりたい」と大川さんは目を輝かせた。

株式会社 Cocoro Ribbon  
〒690-0822 島根県松江市下東川津町57-6  
TEL 0852-61-8707  
[HP] <https://cocororibbon.jp/>